優秀賞　〈低学年の部〉

わたしのパパはおじさんかんごし

静岡県　伊東市立東小学校　二年

堀内　海花

わたしのパパはかんごしです。わたしが生まれた時に、体が小さく、こきゅうが上手に出きなくてＮＩＣＵでおせわになりました。ほいくきに入っているわたしを見て、この子のために、今自分が人のために出来るのは、かんごしになることと思って、３７才の時に学校に入ったそうです。その日からママがパパのようにおしごとをして、パパがママのかわりにごはんを作るようになりました。パパはごはんがおわると、毎日べん強をして２０才も年のちがうおにいさんやおねえさんたちといっしょにがんばっていました。あそんでほしいと思ったけれど、ママに「上のへやに行こうね。」と言われてしまう。

ようち園のうんどう会に、じっしゅうで来られなかったので、お友だちのパパと親子リレーに出ました。一位だったけれどちょっとかなしい気もちになりました。次の年のリレーには、パパと出て三位だったけど、すごくうれしかったです。

ほかのお家とちがうことがいやで、小さかったわたしはみんなと同じがいいなと思っていました。

ママに「なんでほかのお家のパパみたいにあそんでくれないの」と聞いたことがある。ママは、「パパはたくさんおべん強をしてきっとみいちゃんをたすけてくれるようになるよ。」と言っていた。今あそんでほしいのになと思っていた。三年間はとても長かった。そんな時にテレビでびょういんのドラマを見た。ドラマの中のかんごしさんはとてもかっこよかった。いつものパパは、かっこよくないけれど、人のためにがんばるしごとだとよくわかった。すごい。

パパはかんごしのしかくがとれた時ママとわたしに「三年間ありがとう。」と言ってくれた。パパは、かんごしになってから、いろいろな所につれて行ってくれる。おしごとはとてもたいへんそうだけれど、「つかれたー。」と言いながらいっしょにおふろに入ってくれて、話を聞いてくれる。あの時いやだなと思っていたことを少しはずかしいと思った。今はかんごしのパパはわたしのじまんです。ママが言っていたように、わたしやかんじゃさんのためにがんばっている。あんなに小さかったわたしも、今ではクラスで後から数えたほうが早くなったよ。パパいつもありがとう。